

# やまと

広報

7・9 月合併号  
2011 No.216

特集

ふるさと

# シマ再発見!

## ～奄美フォレストポリス～

### もくじ

- 02-07 特集：シマ再発見～奄美フォレストポリス～
- 08-13 村の話題：スモモ収穫、ほか
- 14-14 お知らせ：行政相談員に前田さん、ほか
- 15-16 連載：いきむんマンディ、ほか

ふるさと  
**シマ再発見!**  
 ～奄美フォレストポリス～

大和村の福元地区は奄美大島の中央に位置し、湯湾岳の麓に広がる丘陵地帯だ。断崖絶壁が続く本村の海岸線とは対照的に、なだらかな盆地状の地形が広がる。古くから大和浜間切（現大和村）と焼内間切（現宇検村）を結ぶ陸上交通の要所で、明治・大正期には40戸ほどの農家が暮らしていたという。昭和期には村営による紅茶の栽培や養蚕が営まれていたが、近年は柑橘類栽培の適地としてタンカン栽培が注目を集めている。

平成3年、大和村は荒廃した休耕地の再利用や、豊富な森林資源を活用しようと、自然体験型森林公園の整備に着手。平成12年には奄美フォレストポリスとして正式オープンに至った。

フォレストポリスはマテリアの滝周辺の「溪流ゾーン」、バンガローや食堂施設などの「キャンプゾーン」、水辺の広場を中心とした「水辺のゾーン」、運動場やグラウンドゴルフ場を中心とした「ふれあいゾーン」の4区域からなり、奄美大島では数少ない森の観光地として年間を通して多くの人が訪れている。

平成19年には指定管理者制度による民間経営に移行。経費の節減はもとより、多様できめ細かなサービスの提供に努めている。



～アクセス～

奄美市名瀬から大和村方面、東シナ海沿いに続く県道は入り組んだ海岸線と夕日が美しいサンセットロードだ。県道を西に向かうと大棚集落の手前（毛陣トンネルを抜けてすぐ）の左手にフォレストポリスへ向かう道路の入口がある。東屋のある公園に大きな案内板があるので見落とすことはないだろう。

道路は公園開設に伴い改良され比較的走りやすく、10分ほどでマテリアの滝に達する。フォレストポリスへ通じる道路は他にもいくつかあるが、毛陣地区から登るルートが無難だ。

山道ではアマミノクロウサギなどの貴重な野生動物が出没することがあるので速度を落として安全運転で通行してほしい。

また、福元地区は永らく携帯電話の不感地域として利用者に不便をかけていたが、この程NTTドコモにより携帯電話の基地局が整備され、フォレストポリスのほぼ全域が通話可能となった。これまで緊急時の連絡手段に不安を抱えていた利用者もいただろうが、これからは安心して施設を利用してほしい。

### 〜溪流ゾーン〜

大棚からフォレストポリスに向かい最初に目にするのはマテリヤの滝だ。住用川水系マテリヤ川にある同滝は高低差12m・川幅14mとさほど大きくはないが、特筆すべきは滝を取り囲む景観の美しさだろう。

方言で「マテイダヌコモリ」（美しい太陽の光が差す滝壺）と呼ばれるこの場所は、窪地状の谷間を巨木が覆うため、昼間でもうっそうとして薄暗い。そんな空間に木々の梢から光がこぼれ幾重にも水面を照らし、人々は神々しく光る木漏れ日の美しさに感動し「マテイダヌ・・・」と呼んだという。日差しと木陰の神秘的なコントラストは古の時代から旅人の疲れを癒し、現在でも多くの観光客が訪れる。（現在は伐採や植生の変化により滝の上空は以前より開けています）。

村はマテリヤの滝周辺の豊かな森を活用しようと滝周辺に1周2キロの自然散策道を整備。散策道は木立を縫うように造られ、滝壺から舞い上がる涼風によって一年を通じて冷気に包まれる。

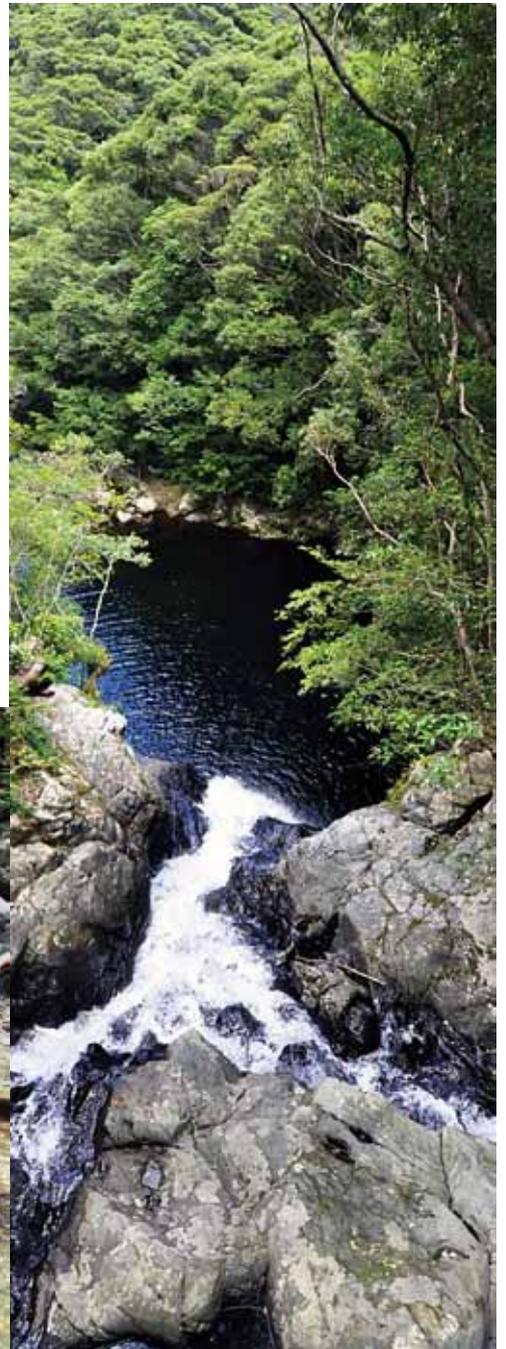
森にたたずみ耳を澄ますと、瀑布の轟音に混じって木々を揺らす風の音や鳥・小動物・虫の音が聞こえてくる。目には見えないがきつとマイナスイオンも降り注いでいるに違いないだろう。

視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚。溪流ゾーンは太陽と森と水の恵みを五感で感じることのできる空間だ。

### 溪流ゾーン

# 五感で感じる自然

- stream zone -



美しい太陽の光が差す滝壺

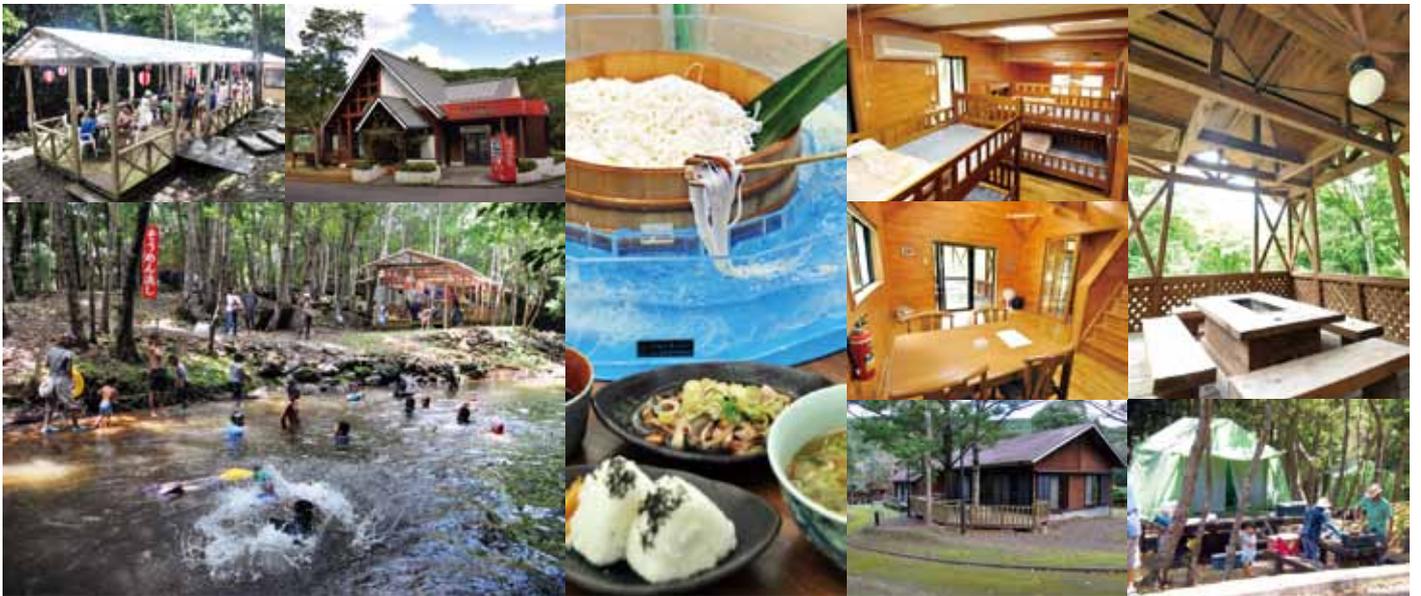


梅雨に咲くイジユの花

キャンプゾーン

# 自然と調和した癒し

- camp zone -



## マテリア茶屋

営業時間：11:30～14:30（月曜定休）

主なメニュー：日替定食（800円）・鶏飯（800円）・  
鶏飯ラーメン（600円）・弁当（500円）

※ そうめん流しは7～8月のみ営業

そうめん流し定食（900円）・替玉（100円）

## フォレストポリスキャンプ場

### 宿泊施設

大バンガロー（25,000円）・小バンガロー（7,000円）  
オートキャンプ（2,000円）・キャンプサイト（1,000円）

### レンタル用品

テント・寝具類・炊事用品・バーベキューセット・  
ランタン・バスタオル

林や小川の中で宿泊や食事を楽しめるキャンプゾーンは、自然と人工施設が調和した癒しの空間だ。

また、施設内の食事処「マテリア茶屋」は、観光客はもとより福元地区で農業を営む農家にも人気の店で、郷土料理の鶏飯を始め、弁当や各種定食が好評だ。さらに夏場には、小川のほとりに設置された特設ブースでソーメン流しを楽しむこともできる。川のせせらぎを聞きながら食べる冷たいソーメンは格別だろう。

最近屋外でテントを設営する本格的なキャンプより、ゆつくりとくつろげるバンガローでのキャンプが人気だ。備え付けの寝具があり、調理器具やバーベキューセットもレンタルできる。また、予約をすればバーベキューの食材も提供することができる。手ぶらでキャンプを楽しめる気軽さから夏休みの間は家族連れで賑わう。

フォレストポリスキャンプ場はマテリアの滝から700m程先にある。スダジイやイジユ、モッコクといった照葉樹の林の中に、宿泊施設や食堂、売店、管理人の常駐する施設があり公園管理の中心施設だ。

宿泊施設は団体宿泊用の大型バンガローが1棟、家族用のバンガロー（2階建て）が4棟あるほか、オートキャンプ場やテントサイトが多数設置してある。

フォレストポリスキャンプ場はマテリアの滝から700m程先にある。スダジイやイジユ、モッコクといった照葉樹の林の中に、宿泊施設や食堂、売店、管理人の常駐する施設があり公園管理の中心施設だ。

〜キャンプゾーン〜



水辺のゾーン

# ゆったり自然を体験学習

- lake zone -



水面を覆うホテイアオイ (H22/5/26)



ホテイアオイ除去作業 (H22/8/20)



## 自然観察会で確認されたトンボ類

- ①アオモンイトトンボ ②アマミルリモントンボ ③アマミトゲオトンボ
- ④リュウキュウハグロトンボ ⑤リュウキュウトンボ ⑥オオシオカラトンボ
- ⑦コシブトンボ ⑧ベニトンボ ⑨アオビタイトンボ ⑩ショウジョウトンボ
- ⑪オキナワチョウトンボ ⑫ハネナガチョウトンボ ⑬ハネビロトンボ



### 「水辺のゾーン」

かつて福元地区に集落が形成されていたころ、住用川水系マテリヤ川流域には水田が広がっていたが、昭和37年に集落が廃村になると耕作放棄地となり近年まで荒れた沼地と化していた。村は平成6年、水田跡地に水路や観察道を設け、体験学習型ビオトープ「水辺のひろば」として整備。広場の広大な湿地帯は、野鳥や昆虫、水生植物など多様な生物が集まる森のオアシスとなった。

昨年7月に奄美野鳥の会が開催した観察会においては、トンボ類だけで13種類の生息が確認されるなど池を中心とする生態系がバラエティーに富んでいることが再認識された。

さらに、ハネナガチョウトンボなど、国内では奄美大島でしか見ることができない希少種が同定されたほか、食虫植物のミカワタヌキモ（別名イトタヌキモ）などの絶滅危惧種の生息が確認されている。

また、奄美の自然を凝縮した水辺の広場だが、これまでに生態系を脅かしかねない危機が度々あった。公園整備直後に放流された鯉が繁殖し、環境への悪影響を懸念した村が鯉の捕獲を行ったほか、昨年には、要注意外来生物に指定される浮遊性水草のホテイアオイが池を埋め尽くすほど異常繁殖。職員総出で駆除作業を行いトラック50台分ものホテイアオイを除去した。水辺のゾーンは、自然環境の保護・保全活動も含めた奄美の自然を体験学習できる空間だ。

ふれあいゾーン

福元地区では、昭和30年代に村直営により紅茶（後に緑茶）の栽培、製造販売事業が行われていた。一面に茶畑が広がり、収穫期には茶摘みや加工を行う人々で賑わったという。

村はかつての茶畑をふれあいゾーンとして運動場や公園を整備。村民体育大会を同グラウンドで開催するなど、地域間交流の拠点づくりを目指してきた。

近年は折からのグラウンド・ゴルフブームにより村内外からグラウンドゴルフ場の利用者が増加。これを受け村は既存の「ルリカケスコース」の隣接地に「クロウサギコース」を増設。2コース、16ホールの公認コースとしてリニューアルオープンした。両コースとも既存の樹木やお茶の木を適度に配置し、自然に溶け込んだコースとして人気を博している。

また、リニューアル後も県民体育大会大島地区大会を始め、多くの大会が開催されている。遠隔地にもかかわらず多数の人が訪れるふれあいゾーンは、グラウンド・ゴルフ競技を始め健康づくりや生涯スポーツの場として親しまれている。

ふれあいゾーン

# 自然の中で健康づくり

- health zone -



グラウンド・ゴルフ場：クロウサギコース



グラウンド・ゴルフ場：ルリカケスコース



平成 23 年県民体育大会・大島地区大会

**グラウンドゴルフ場利用要領**  
 使用料：200 円 / 1 人  
 貸出品：クラブ・ボール (200 円)  
 予約先：フォレストポリス管理棟  
 TEL 0997-58-3166



気候療法

自然の中で気候療法

近年、自然を活用し日常とは異なる環境で治療や保養、健康づくりを行う「気候療法」が広がりを見せつつある。

気候療法とは、適度な強さの寒冷刺激や日差し、そよ風、水蒸気など野山の環境の中に身を置き、アウトドアウォーキングを中心とした運動により負荷を与える療法だ。自律神経系と代謝に生理的な適応を起こさせることから、心臓や循環器、代謝疾患の治療に用いられ、ヨーロッパの山岳地や海岸で積極的に取り組まれている。

先進地における取り組みや気候、地形条件を新聞等で散見する中、フォレストポリス一帯は奄美大島における気候療法の最適地ではないかとの思いが沸いてきた。山岳部の冷気や森の中の木漏れ日、水蒸気。どれもフォレストポリスに豊富に存在する要素だ。

大和村ではヒカンザクラの開花に併せて「まほろば大和ウォーキング大会」を開催しているほか、奄美市内のスポーツクラブが専門家の指導のもと気候療法によるウォーキングを開催している。気候療法の専門家もフォレストポリスに訪れた際に気候療法の候補地として太鼓判を押した。

最近ではウォーキングが静かなブームとなり多くの愛好者を見かける。健康づくりは毎日の積み重ねが大事だが、時には環境を変えて森の中を歩いてみてはどうか。家族や友人達と語らいながら自然の刺激を楽しむもよいだろう。

湯湾岳は大和村と宇検村の村境に位置し、標高694.4m。奄美大島の最高峰だ。奄美大島開闢（かいびやく）の祖、阿麻弥姑（アマミコ）、志仁礼久（シニレク）の二神が降臨した霊峰と伝えられ、古くから人々の信仰の対象とされてきた。頂上付近には鳥居やほこらが祀られ、現在も地元の人々に崇められている。

頂上付近の南北2箇所の展望所からは山並みの向こうに眺望が開ける。北は摺子崎や横当島の浮かぶ東シナ海、南は大島海峡と請島、与路島、さらには徳之島の島々を望むことができる。緑のグラデーショナルの森と紺碧の海を見下ろすパノラマは、ここが奄美大島のとっぺんだということを実感させられる。

また、湯湾岳は亜熱帯常緑広葉樹林から温暖帯風衝低木林が広がる特異な林相をなし、森の中にはアマミノクロウサギを始めケナガネズミ、アカヒゲ、オオトラツグミ、ルリカケスなどの天然記念物が生息していることから、神屋・湯湾岳天然記念物国指定を受け貴重な自然を保護している。

湯湾岳への登山道は大和村と宇検村から二つのルートがあり、大和村ルートは登山口駐車場からポードウォークを登り20分ほどで到着。宇検村ルートは湯湾岳展望台から山道を歩き50分ほどで登頂することができる。気軽に眺望を楽しみたい方、ゆっくり歩いて自然を観察したい方、それぞれの好みに合わせて登山を楽しんでほしい。

我きや島ぬサンクチュアリ

霊峰

# 湯湾岳



頂上付近からの展望（正面は加計呂麻島・与路島・請島）

# フォレストポリス・ナイトツアー



アマミノクロウサギの糞塊

「クロウサギに会いに行こうでい！」と題し、フォレストポリス周辺の自然観察ツアーを行っている大和村唯一のガイドがいる。ガイドの名は大野英則さん（42才）。大野さんは島の自然に惚れ込み3年前に埼玉県から移住。現在はフォレストポリスを管理運営する高倉産業に勤務している。

大野さんが実施するツアーは奄美大島観光物産協会が主催する「あまみシマ博覧会」の116あるプログラムの一つで、夜間にフォレストポリスと湯湾岳の周辺を巡り、貴重な動植物を観察するというもの。特にアマミノクロウサギに遭遇する頻度が高いと評判で人気を集めている。

大野さんは数十カ所ものクロウサギが出没する箇所を綿密に調査しており、その日の天候など条件に合わせて案内ルートを設定するという。参加者の中には他のツアーでクロウサギを見られずに、大野さんの噂を聞きつけて申し込む方もいるらしく、「最近のお客さんはハードルが高くて困っちゃいますよー。」とご本人も苦笑いする。

「ぜひ私にもクロウサギを見せてください」そう無理にお願いし、取材をかねてツアーに同行させていただいた。

ナイトツアーはフォレストポリスキャンプ場を発着地として午後8時から10時までの2時間。参加費用は格安の2千円！しかもツアー中にハブを捕獲した場合は料金が半額になるという特典付き。

この日は、奄美市と県本土からの女性2組3名の申し込みがあった。まずは、施設内でツアー内容の説明や周辺に生息する生き物の生態、そしてアマミノクロウサギを取り囲む現状と問題点などを説明。大野さん持ち前の明るいキャラクターと親切丁寧な語り口ですぐに場が和む。

説明を終えると早速車に乗り込みツアー開始。奥山へ向かうと思いきや以外にも大棚方面へ道を下る。クロウサギの生息分布は広範囲で、時間帯によっては人里近くの道路へ出没すること。しばらくクロウサギを見ることは出来なかったが、昆虫類（2種）や鳥類（4種）、カエル類（3種）、蛇類（5種）など多くの生き物を観察することができた。





上：出発前の内容説明 下：ヒメハブの観察

# 「アミノノクロウサギ」の観察ツアー



後半は満を持して湯湾岳へと向かう。途中でクロウサギが使用している獣道や給餌場、そして大量の糞が転がる糞場を観察しながら進むと、湯湾岳登山道へ向かう途中でついに2頭のクロウサギを発見。残念ながらすぐに立ち去り撮影することはできなかったが、黒い毛色と短な耳、小さく飛び跳ねる姿は、「生きた化石」と呼ばれるアミノノクロウサギに間違いなかった。

初めて見るアミノノクロウサギに感動し喜ぶ参加者たちの傍らで、役目を果たした大野さんのご満悦な表情が印象的だった。今回クロウサギに遭遇できたのは単なる偶然ではなく、大野さんの周到な準備による必然の結果だったのだろう。

参加者達はクロウサギに会えた興奮さめやらぬままキャンプ場へと移動。キャンプ場では大野さんがかねてから用意しておいた小ネタ(?)を披露してもらい参加者から再度歓声上がる。

ツアー終了後、参加者にお話をお伺いすると「アミノノクロウサギは特別な存在なので、今回見ることができて嬉しかった」、「次は友人達と自分の車でドライブにきたい」などと感想を述べた。

私自身も初めてのナイトツアーへの参加であったが、森に出向き自然観察を行うためのハードルは決して高くはないと感じた。大和村役場のある大和浜集落から湯湾岳までは1時間程と以外と近く、全線舗装道路なので普通車両でも通行が可能だ。また、夜行性の動物たちは道路上へ出てくる事が多く、車中から安全に観察することができる。なにより観察範囲が緊急時の連絡手段となる携帯電話のエリア内というのが心強い。現地に詳しいガイドさえいれば気軽に野生生物に会うことができる場所だ。

奄美フォレストポリスでは、森林浴やバーベキュー、体験学習、健康づくり、自然観察など、様々なメニューで奄美の自然を満喫することができる。ともしれば海のレジャーばかりに目が行きがちな私達シマツチユ(奄美人)だが、ぜひ一度フォレストポリスへ足を運んでほしい。

二神降臨、入植と開拓、開発と保護。古くて新しい島のテーマがフォレストポリスにはある。だが何も身構える必要はない。思い思いのスタイルで自然を楽しめばいい。見慣れたフォレストポリスの森と湯湾岳が眩しく輝くとき、きつとシマ(ふるさと)の魅力を再発見しているに違いない。

# ヤネ（来年）こそは！

## 豪雨・台風被害を乗り越えスモモの収穫始まる

6月に入り本村特産のスモモ（奄美プラム）が収穫期を迎えた。今年のスモモは5月29日に接近した台風2号の強風により落果が相継ぎ大きな減産となったうえ、塩害による落葉で食味が落ち市場価値が大きく低下した。JAあまみによると、共販取扱量は47トン、販売額1,468万円にとどまり、過去5年間で最も少なかったという。

収穫期は奄美各地からスモモが持ち込まれ選果作業で賑わう本村の湯湾釜選果場だが、今年は取扱量が少なく稼働も6月9日から23日までの2週間で終了した。JAあまみによる宅配サービスも品質低下を理由に早々と出荷を停止したという。例年は贈答用に数多く出回るスモモだが今年は購入をためらう消費者も多かったようで、村内で民宿を営む女性（74才）は「いつもは常連客のみなさんにスモモをお届けするのですが今年は送るのを止めました。大和村を代表する果実なので残念です」と語る。

幸い収穫終盤には「甘酸っぱくてみずみずしい」と

例年通りの美味しいスモモが出回り関係者を安心させたが、村産業振興課は来年以降の生産に気をもむ。農家に対して適切な剪定や土壌管理、暴風対策、老木の改植の指導に余念がない。

「果樹の村」を標榜している大和村だが、スモモの安定的な生産と加工、販売の確立は道半ばだ。農家ならずとも「ヤネ（来年）こそは！」の思いは強い。



大和村湯湾釜選果場

## 「美味しくな～れ。美味しくな～れ。」

### 大棚小でスモモ加工教室

大棚小学校（霧島一浩校長・児童26人）では、食育を通じて地域食文化の理解と自然の恵みに感謝することを目的として、地域で収穫したスモモからジュースやジャム、ゼリーを作る体験学習を毎年行っている。

食材となるスモモは集落内の教会から提供されたものを子ども達が収穫。4グループに分かれて2キロずつ加工した。

調理は、①切り目を入れたスモモを茹で砂糖を加えた煮汁でジュースを作る、②茹でたスモモの種を取り砂糖を加えながら煮てジャムを作る、③ジュースに砂糖とアガー（ゼリーの素）を溶かしたお湯を加え冷やし固めてゼリーを作る、というもの。

5,6年生の児童達は低学年のちびっ子達の面倒を見ながら全員で料理に奮闘。スモモの種を取る工程では、種のまわりに付いた果肉をほおぼり「甘ぁ～い」と歓声を上げる場面も。また、ジャムづくりの最終工程、果肉を煮詰める際には「美味しくな～れ。美味し

くな～れ。」と呪文を唱える子もいた。

ジュースとジャムはちょっぴり味見をした後容器に詰めてそれぞれ自宅へ持ち帰り、ゼリーは冷蔵庫で冷やして昼食のデザートで食べることに。1年生の奥平光くんは「自分で作ったゼリーは美味しい。今度はおうちでお母さんと作りたい」と話した。児童達にはいつまでも記憶に残るふるさとの味であってほしい。



賀川翔瑛くん（4年）前田侑香さん（5年）奥平光くん（1年）  
畠中先生 碓本愛美さん（1年）前田峻之介くん（2年）左から

# azusa と gen がスモモをPR

## 東京上野で奄美フェスタ開催

東京奄美会青年部主催による第3回奄美フェスタが6月5日、東京上野恩賜公園にて開催され、出身者を始め多くの奄美ファンで賑わった。

イベントは、喜界島出身の兄弟デュオ "doki doki" がオープニングをつとめ、牧岡奈美や城南海（大和村2世）など11組の奄美出身アーティストが競演した。

ステージ中盤では大和村国直出身の "azusa" が登場。

テレビアニメ「もしドラ・・・」のオープニング曲「夢ノート」を始め5曲を熱唱。曲の合間には「地元の大和村からおいしいスモモを持ってきています。ぜひ味見をして下さい」と大和村のPRをするうれしい場面も。

イベントのフィナーレは出演者と観客が一体となり、



総立ちで六調を踊って閉幕した。

また、ステージ周辺には多くの販売ブースが設けられ、大和村からは伊集院幼村長を始め農家や加工組合、奄美ハナハナ（グレイ美術）が特産品の販売、PRを行った。大和村ブースには多くの出身者が集まり販売を応援。自ら店頭に立ち試食を勧めるなど会場一番の活気でイベントを盛り上げた。



# ウミガメのベビーブーム

## 国直海岸で産卵とふ化が同時期に展開

「くっかるぬ鳴きてければかむいぬ寄りゅん。」（アカショウビンが鳴く頃になるとウミガメが産卵のため浜に上陸する）という島の諺のとおり、5月の中旬から聞こえ始めたアカショウビンの鳴き声とともに村内の海岸ではウミガメの上陸が見られた。

奄美大島に上陸、産卵するウミガメは主にアカウミガメとアオウミガメ。これらは夜間に砂浜に上陸し、砂の中にピンポン玉程の卵を100個程度産む。卵は海水に浸るとふ化できないため母ガメは満潮線よりも高い場所に深さ5、60センチの穴を掘って産卵。一夏に2、3回産卵するという。

卵は約2カ月でふ化し一斉に海へ向かうが、中には集落の街灯に惑わされ陸へ”逆走”する子ガメも。



例年ウミガメが多く上陸する国直海岸だが今年は産卵とふ化が同時期に展開。7月19日には体重100キロ程の大きなカメが砂浜に上陸し、翌日には子ガメがふ化。ウミガメの様子を見物する集落民を喜ばせた。

鹿児島県ではウミガメ保護条例によりウミガメと卵の捕獲、採集を禁止している。産卵を観察をする際にはウミガメを刺激しないよう静かに見守りましょう。

## 盛大に大和の園夏祭り



**特**別養護老人ホーム大和の園（中山昭二園長）恒例の夏祭りが7月2日土曜日に開催された。施設中庭に設置された特設会場は家族会や地域の人々で賑わい、入所者は家族に囲まれ夕べの一時を楽しんだ。ステージでは入所者による棒踊りを皮切りに舞踊や島唄、カラオケ、ダンスが繰り広げられ、途中でお元気な入所者が飛び入りで踊り出す一幕も。祭りのフィナーレは来場者全員で「島のブルース」を踊り締めくくった。

## むっちょも〜れフェスタ賑わう



**農**林水産物から日用品まで幅広い商品をフリーマーケット形式で販売する「第4回むっちょも〜れフェスタ」（同実行委員会・馬屋原一会長）が6月12日に村体育館で開催された。会場には旬のスモモを中心に新鮮野菜が並べられ、村内外から多くの人で賑わった。台風被害で品薄となったスモモコーナーには開店と同時に客が詰めかけわずか10分で売り切れた。同実行委員会はフェスタを盛り上げるため多くの出店を呼びかけている。

## さ〜さ〜のは〜 さ〜らさら〜♪



**大**和保育所（園児24人）では7月7日、七夕飾りを保育所玄関前に取り付けた。飾りには「シンケンジャーみたいにつよくなりたい」とか「プリキュアみたいにケーキやさんになりたい」といった願いごとが書かれた色鮮やかな短冊が結びつけられ、送迎に訪れる保護者や通行人の目を楽しませた。飾りを取り付けた後は「さ〜さ〜のは〜さ〜らさら〜」と大きな声で全員が七夕さまを合唱し、七夕飾りに願いを込めた。

## ラグビー競技郡体優勝！



**大**島工業高校グラウンドにて7月9、10日に行われた第65回鹿児島県民体育大会・第52回大島地区大会ラグビー・フットボール競技において大和村チーム（松崎真一監督）が8年ぶり2回目の優勝を飾った。大和村チームは初戦で前年優勝の奄美市に17-0で勝利し勢いにのると、知名町に40-5、龍郷町に14-12と連勝。続く決勝戦では瀬戸内町に21-0と完勝し、4戦全勝で念願の優勝を果たした。

## 大和小がこども自転車大会優勝



**奄**美地区交通安全協会と奄美警察署主催による「第3回交通安全こども自転車奄美地区大会」が6月18日、奄美市の名瀬サンドームにて開催され、本村の大和小学校が見事優勝した。同大会は交通規則の知識を試す筆記試験と、実際に自転車に乗ってジグザグ走行や8の字走行などの実技試験を行いその正確性を競うもの。個人の部でも3位に入賞した福山勇成くんは「もっと練習して県大会でも優勝したい」と意気込みを語った。

## 津名久子ども会優良表彰



**津**名久子ども会（仁添徳人会長）は、鹿児島県子ども会育成連絡協議会から優良団体表彰を受けた。同子ども会は幼児から高校生まで23人で構成。集落や村の各種行事に積極的に参加している他、稲作り体験や通学路の清掃など独自活動に取り組んでいる（写真は尾神トンネル清掃活動）。今回の表彰はこの様な永年に渡る慈善活動が高く評価されたもの。今後も津名久子ども会には他の育成活動の模範となる役割を果たしてほしい。

## 大棚小で手作りロボット講座



**大**棚小学校（霧島一浩校長・児童26人）では7月11日、鹿児島工業高等専門学校の引地力男准教授を招きロボット出前講座を開催した。講座は3～6年生の15人が受講し、ペットボトルを使った昆虫ロボット作りに挑戦。引地先生はロボットを作る際にモノを大事に取り扱うこと、先生の話をしっかり聞くこと等を注意しながら児童達にモノ作りの楽しさを伝えた。

## クルマエビ養殖場へ職場体験



**大**和小学校（農原弘久校長）の5・6年生15人は6月8日、湯湾釜にある奄美養殖場（クルマエビ養殖）を訪れ養殖業体験学習を行った。同学習は地域の産業を体験し理解を深めることを目的として行っているもので、児童達は重久巨場長と共にイカダに乗り込み稚エビの放流を体験した。放流後、児童達は重久巨場長からクルマエビの餌やりや養殖池の水質管理など日頃の作業について説明を受け熱心に聞き入っていた。



**行政相談員に前田さん**

大和村の行政相談員に前田清和さん（42才・大柵）が就任しました。行政相談員とは、行政機関等の業務に関する苦情の相談を受けて、相談者に必要な助言を行ったり、関係行政機関等にその苦情を通知したりするほか、役所と連携して苦情の解決を図ります。役所への苦情や要望などがありましてからお気軽に前田相談員へご相談下さい。秘密は固く守られます。

住所：大和村大柵200番地  
電話：0997-57-2868  
定例相談所：大和村産業振興センター

今月のいきびん



トカラ列島から奄美群島にかけて生息するオオシマトカゲ。普段は姿を見つけても素早く逃げてしまうのですが、この日は林道の真ん中で、ゆっくり日なたぼっこをしていました。

**「サポステ」のご案内**

若者サポートステーションをご利用下さい。ニート（若年無業者）、ひきこもり等悩みを抱える若者の職業的自立をサポートします。

《支援内容》

○相談（面談・電話・メール）  
現在の状況を客観的に見つめ、自立へ向けてのステップを一緒に考えます。生活習慣の改善等、まずは小さな目標を立ててみます。

○職場見学・職業体験  
様々な企業・施設への訪問や農作業体験・パソコン練習等多様な活動を通して、就職に向けた心構えや技能を身につけます。

○家族のサポート  
相談員がじっくりとお話を聞きます。また同じ悩みを抱える家族同士で語り合う場を設けます。

ひとりで悩まないで、はじめての一步を踏み出してみませんか。

【開所時間】月曜～金曜 9:00～18:00  
（相談受付17:00まで）  
（土・日・祝祭日・年末年始は休み）

【連絡先】〒894-0036 奄美市名瀬長浜町23-25 NPO法人奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」内奄美若者サポートステーション  
電話 0997-57-0770（FAX兼用）  
Eメール  
amami-saposute@polka.ocn.ne.jp  
ホームページ  
http://amami-saposute.sakura.ne.jp/

**障がい者やその家族と一緒に活動して下さる協力員を募集しています**

平成23年4月から、「戸円校を活用した障がい者等の自立支援」を目的とした活動が大和村の戸円校でスタートしました。

現在、当事者・その家族を中心に、週1回のペースで話し合い活動をすすめています。まだスタートしたばかりで、たくさんの方のアイデアをだしながら、これから少しずつ進んでいく活動です。障がいをもつ方々が、能力を発揮しながら、楽しみやいきがいをもって暮らせる地域づくり活動にあなたも参加しませんか？

まずは見学だけでもかまいませんので、興味のある方は下記へご連絡下さい。

活動日：毎週水曜日  
13:30～15:30  
場所：戸円校  
連絡先：大和村保健福祉課・地域包括支援センター  
電話：0997-57-2218  
担当：田中・早川・藤原



**浄化槽法定検査のお願い**

浄化槽法では、適正な使用、保守点検、清掃が行われているか、また、きれいな水が放流されているかを確認する法定検査が義務づけられています。検査は、知事が指定した検査機関である（公財）鹿児島県環境検査センターが事前にお知らせの封書をお送りした上で、改めてハガキで通知する検査日にお伺いし、現場での検査と浄化槽の放流水を持ち帰って水質検査を行います。（契約している保守点検業者が行う保守点検とは別ものです。つきましては、検査の趣旨をご理解の上、受検していただきますようお願いいたします。

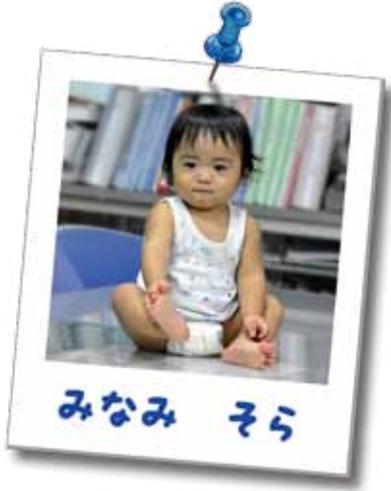
■保守点検  
機器の点検・調整・害虫の駆除や消毒薬の補充などを行います。（自動車であれば・・・日常点検や修理）

■法定検査  
設置工事や保守点検を含めた維持管理が適正になされているかを確認し、水質検査や外観検査、書類検査を行います。（自動車であれば・・・車検）

■検査手数料  
単独浄化槽（5～10人槽）：4,000円  
合併浄化槽（5～10人槽）：6,000円

■問い合わせ先  
（公財）鹿児島県環境検査センター  
電話 099-223-3185  
県大島支庁保健福祉環境部  
（名瀬保健所）TEL 0997-52-5411  
大和村役場住民税務課  
電話 0997-57-2111(31)

カメラを向けると自然と笑顔にご愛敬はおとうとおかあ譲りかな



南蒼空さん  
保護者・南利通さん（大和浜）

元氣いっぱい帰ってきました  
じいじもばあも待つてたよ



元山莉緒さん  
保護者・元山博三さん（大金久）



満1歳おめでとう

### こせきの窓

人口 1,727人 (△49)  
男 823人 (△12)  
女 904人 (△37)  
世帯 901戸 (△1)

9月1日現在  
(前年同月比)

ご結婚おめでとう

上村太一さん（名音）  
當 麻美さん（奄美市）

お誕生おめでとう

宮那の雛菜さん（保護者・宮慎一）  
杉島の希空さん（保護者・杉島勇）

お悔やみ申し上げます

高橋 和美様（71歳）  
前里 フヂエ様（99歳）  
中 政彦様（67歳）  
宮田 慶勇様（82歳）  
蘇畑 潤造様（70歳）  
岩崎 カチ様（75歳）

香典返し（社会福祉協議会へ）

高橋 町子様（故高橋和美様）  
中 チカ子様（故中政彦様）  
宮田 レイ様（故宮田慶勇様）  
蘇畑 たず糸様（故蘇畑潤造様）  
前里 光栄様（故前里フヂエ様）  
福山利香子様（故岩崎カチ様）

### いきむん マンデイ vol.05

本格的な夏がやってきました。この時期、涼を求めて水辺へ行くと、優雅に飛び交うトンボをよく目にします。今回は大和村で観察したトンボを紹介します。



③

②アオビタイトンボ

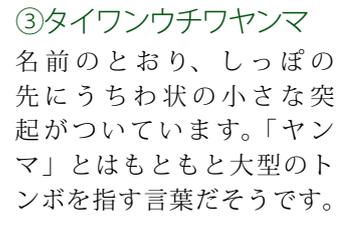
名前のおり額が青い。もともとは沖縄の南大東島以南に生息していますが、年々分布が北上し今では本州でも観察することができるそうです。



①

①ベニトンボ

オスの体色は紅色でとても目立ちます。よく観察してみると、翅の脈までが赤いことに気が付きます。ショウジョウトンボのオスに似ます。



③タイワンウチワヤンマ

名前のおり、しっぽの先にうちわ状の小さな突起がついています。「ヤンマ」とはもともと大型のトンボを指す言葉だそうです。



②

⑥ハネナガチョウトンボ

国内では奄美大島でのみ生息が確認されています。翅の基部は光の当たり具合で青や紫色へと美しく光り、飛んでいる姿は一際目を引きます。



⑤

⑤オオシオカラトンボ

シオカラトンボに似ますが、頭部が黒いことと胸部から腹部にかけて青味が強い点で区別ができます。少し暗い環境を好んで生活するようです。



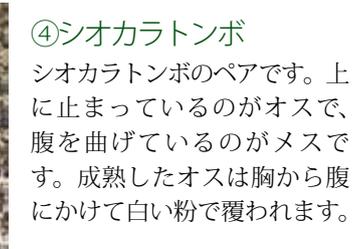
⑦

⑦リュウキュウハグロトンボ

河川の上流から中流域周辺で観察することができます。写真はオスですが、メスには翅の先に白い斑があります。



⑥



④シオカラトンボ

シオカラトンボのペアです。上に止まっているのがオスで、腹を曲げているのがメスです。成熟したオスは胸から腹にかけて白い粉で覆われます。



④

# 幸福を招く木・フクギ

フクギは東アジア原産のツバキ目、オトギリソウ科の常緑広葉樹。方言名を「トツクギ（もしくはトーフクギ）」といい、葉肉が厚く、耐火・防風に優れていることから南西諸島全域で屋敷林として利用され、別名「クウワジバギ（火事場木）」とも呼ばれます。成長の遅い本種ですが村内の各集落には大木が残り、古くから植樹されていたことがうかがえます。

真つ直ぐに伸びる樹勢が美しく、並べて植栽すると壮観な緑の壁を作るフクギですが、国直集落には両脇をフクギに囲まれたフクギの小道が数本残っています。日差しを遮るフクギの木陰は涼しく、真夏にあっても集落の人たちの一時の涼をもたらします。

下の絵は昭和43年頃のジヨグチ（海岸へ降りる小道）の風景。両脇をフクギの大木が取り囲み、さながら「フクギのトンネル」の様相を成していました（現在では片側のみ残っています）。緑のトンネルを抜け真つ白な砂浜と青い海が広がる景色はシマ（ふるさと）の原風景でしょう。



熟したフクギの実



1968.3.4 国直海岸への道



朝夕めつきり涼しくなり始めた奄美ですが、秋が近づく頃になるとフクギの下に住む家々にはちよつとした異変が始まります。

それは黄色く熟したフクギの実の落下です。夜中に「ゴンツ」とトタン屋根を叩く音は誰かが悪さをして石を投げたかのような物音です。

また、果肉の厚いフクギの実は腐食すると強い発酵臭がして周りの住民を困らせます。旧笠利町から国直に嫁いできたT姉さんは初めて嗅ぐ異臭にガス漏れと勘違いし、あわてて業者を呼んだという逸話があるほどです。

慣れない人には不快で絶えられない臭いかも知れませんが、永年フクギの下でくらす村人にとっては懐かしい香りでもあります。フクギの発酵臭を嗅ぐと、夏の日差しやクガツクンチ（豊年祭）の喧騒を思い出す「ナツカシヤシマヌカザ（懐かしいふるさとの香り）」です。

## お便りを お待ちしております。

村政への要望や広報誌の意見、今後特集してほしい記事などを募集しています。紙面にてご紹介いたしますので、左記住所（アドレス）まで郵送またはメール、ファックスにてお送り下さい。



←バーコード読み取り機能付き携帯電話をご利用の方はここから大和村ホームページ携帯サイトへ簡単にアクセスできます。それ以外の方は直接 URL を入力してアクセスしてください。  
(<http://www.vill.yamato.lg.jp/i/>)

発行・編集 大和村役場総務企画課  
〒 894-3192 鹿児島県大島郡大和村大和浜 100 番地  
TEL 0997-57-2111 FAX 0997-57-2161  
mail:info@vill.yamato.lg.jp  
<http://www.vill.yamato.lg.jp>